

平成30年8月17日

蕨市長 頼高 英雄 様

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議

会長 林 大樹

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る意見について

本有識者会議は、市長より委員の委嘱を受けて、平成30年7月11日に蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略について検証を行った。

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げる取り組みは、出生率の向上と子育て世代の定住促進に向けて、概ね着実に実施されているものと思われる。

引き続き、急速な少子高齢化の進展や人口減少社会に対応し、持続可能な都市として発展し続けるため、近年の傾向として見られる子育て世代の転出の解消に向けた取り組みを推進されたい。

なお、検証の過程で出された意見については、別添の「蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る意見」に整理したので、施策・事業の推進にあたっては十分に配慮・検討されたい。

別添

蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る意見

(蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について)

- 蕨市では、近年は人口の社会増と自然減、全体として人口増加の傾向が続いている。都心に近い利便性などを背景として、若い世代による一過性の移動が多い傾向にあるが、今後もファミリー層の転出を防ぐなど、一層定住人口の増加を図っていくことが重要である。

(蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略について)

- 安全・安心に関わる分野については、地域による防災訓練の実施などの地域防災力の向上や犯罪発生件数の減少に向けた取り組みが進んでいる。今後も、行政、地域、関係機関等で連携しながら取り組むとよい。
- 保育施設の増設など、子育て環境の充実に向けた施策が進められている。保育施設については、引き続き増大する需要への対応が必要と考えられるが、空き店舗など土地の有効活用も含め、利便性の高い駅前等への整備も検討されたい。
- アウトメディアの啓発については、現在、小・中学生を中心に取り組んでいるが、更に低年齢の子どもやその親などに対象を拡充することも大切である。
- 高齢化で需要の増大する介護施設の増設に引き続き取り組まれない。また、子育てと介護の「ダブルケア」の家庭への支援という視点も重要である。
- まちの活性化に向けて、創業支援や空き店舗対策、蕨ブランド認定制度を一層の販売促進につなげる取り組みなどを積極的に進められたい。
- 地域資源の更なる有効活用のため、行政だけでは難しいことでも民間と連携して取り組むなど、創意工夫を行うことが重要である。
- 市民意識調査における「駅周辺の整備」の満足率を見ても、蕨駅周辺の再開発は重要である。また、簡単ではないことと思うが、近隣市と連携して、駅東口の整備についても検討されたい。
- 施策全体の横断的な連携を強め、横串を刺すように複数の施策を推進する観点から取り組みを進めるとよい。特に、ソフト面の充実を図りながら、コミュニティの豊かさを更に高めてほしい。